

第十二章 泌尿器科プログラム

1. 週刊予定表(2年目、前期研修医用)

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	病棟回診 外来	病棟回診 透析室回診	病棟回診 透析室回診	病棟回診 手術	病棟回診 外来
午後	手術	検査 ESWL	手術	手術	検査 ESWL
夕方	透析室 カンファレンス	病棟 カンファレンス			

2. 研修目標

泌尿器科の研修を通して、腎不全を含む代表的泌尿器科疾患に対する診断・治療の実際に携わり、手技や知識を確実に身につけることを目標とする。また、外科領域の一分野として実施される泌尿器科手術について理解を深めるとともに、泌尿器科で広く行われる各種内視鏡手術の基本について理解する。具体例を以下に記載する。

- A 外来診療において適切な問診が実践できる。
- 1) 主訴、現病歴を的確に聴取、記録できる。
 - 2) 家族歴、既往歴、生活歴を系統的に聴取、記録できる。
 - 3) 問診結果から疾患群の想定ができる。
- B 泌尿器科疾患に対する各種検査法を理解し、実践できる。
- 1) 泌尿器科領域の理学的検査
腎・腹部触診、前立腺触診、陰嚢内容触診
 - 2) 尿(蛋白、糖、潜血、沈渣)尿道分泌物・前立腺液・精液の検査
 - 3) ウロダイナミクス 尿流量測定、膀胱内圧測定
 - 4) 内視鏡検査 膀胱尿道鏡、尿管鏡、腎盂鏡
 - 5) X線検査
KUB(単純撮影)、IVP(経静脈的腎盂造影)、RP(逆行性腎盂造影)、VCU(排尿時膀胱尿道造影)
 - 6) 超音波画像診断検査
 - 7) 核医学画像診断検査
PET-CT、核種RI検査
 - 8) CT、MRI

C 入院患者に対して全身、局所管理が適切に行える。

- 1) 主治医としての基本的能力を身に付ける
- 2) 手術例の周術期の全身管理と対応
- 3) 非手術症例に対する全身管理と対応
放射線療法・化学療法・血液浄化法患者、重症感染症患者

D 泌尿器科疾患について知識をもち、治療方針をたてられる。

- 1) 副腎腫瘍
- 2) 腎尿路性器の悪性腫瘍（腎細胞癌・腎盂尿管癌・膀胱癌・前立腺癌・精巣癌・その他）
- 3) 尿路結石症（腎結石、尿管結石、膀胱結石）
- 4) 非特異的感染症（膀胱炎・腎盂腎炎・その他）
- 5) 尿路機能障害（神経因性膀胱・尿失禁・その他）
- 6) 下部尿路閉塞性疾患（前立腺肥大症・尿道狭窄）
- 7) 腎不全（急性・慢性）
- 8) 陰嚢内容の疾患

E 手術に関する一般的知識を修得する。

- 1) 手術の適応
- 2) 手術術式
開放手術、経尿道的手術、鏡視下手術
- 3) 手術合併症・後遺症
- 4) 手術器械・材料
- 5) 消毒法・術中感染

F 非手術的治療の原理と方法を理解する。

- 1) 体外衝撃波碎石術（ESWL）
- 2) 血液浄化法（血液透析・血漿交換・血液吸着）
- 3) 全身化学療法

6. 研修の特徴

- [1] 卒後臨床研修の一環として、プライマリケアとしての適切な尿路管理を理解し、実践できるように指導する方針です。
- [2] 多数の腎不全症例に対する診断・治療を経験し、理解を深めることができます。
- [3] 小児から老人まで、幅広く患者さんをみる事が可能で、これら患者さんに対する接し方を学ぶことが可能です。